

2024 年度における業務実績の概要

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番。

県立大学

教 育

◆項番 1 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」による教育の実施

- ・1 年次必修とした「多文化社会への招待」、「データサイエンスへの招待」及び、選択科目である「県大エッセンシャル」、「県大教養ゼミナール」を全学部連携型授業として開講
- ・複数学部連携型授業として、「グローバル社会の諸問題」、「エリアスタディーズ総論」、「いのちと防災の科学」、「ものづくりの現状と課題」を開講
- ・授業改善支援に関連し、グループワーク型講義等に関する知見、手法などを学内で共有できるよう、高等学校等の視察調査を実施

【指標】（全学部連携型授業を 1 科目、複数学部連携型授業を 4 科目開講する。）

⇒全学部連携型授業 4 科目、複数学部連携型授業 4 科目を開講

自己評価：Ⅳ

◇項番 4 専門教育における効果的な教育カリキュラムへの見直し

- ・外国語学部において、新教育プログラム「多言語社会課程」の必修科目であるゼミや PBL 型授業、国内外のフィールド実習等を整備し、学生 20 名による 2025 年度開講を準備
- ・日本文化学部において、「世界へ発信する日文カリキュラム」として「歴史文化」、「社会文化」に「比較文化」を加えた新たな科目を開講

自己評価：Ⅳ

◇項番 5 大学院教育におけるコース、カリキュラムの見直し

- ・国際文化研究科「コミュニティ通訳学コース」において、「多言語多文化社会で必要とされるコミュニケーションデザイン能力を有する専門職人材の共同育成」プログラムが文部科学省研究拠点形成費等補助金事業（人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業 国際連携型）として採択され、オーストラリア・スペイン・台湾・ベトナムの大学院と連携した教育研究を開始
- ・情報科学研究科において、博士前期課程の学生 10 名が「共同研究プロジェクト」として単位認定を伴う民間企業及び外部機関でのインターンシップを実施

自己評価：Ⅳ

◇項番 7 特色ある教員養成を行うための教育の推進

- ・文部科学省「地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業」として、「多文化共生社会の課題解決に向けた協働的力の形成～ポートフォリオを軸とした「あいち地域共創教員プログラム～」」が採択され、愛知県と名古屋市、及び近隣の長久手市、瀬戸市、尾張旭市、日進市の各教育委員会と連携した新たな教員養成プログラムを開始

自己評価：Ⅳ

研 究

◆項番 18 学部・研究科横断型の学際的研究や、産業界・地域社会等との連携による高度で挑戦的な研究を積極的に推進

- ・学長特別研究費「学部間連携・産学公連携研究」で、2 件の研究を採択・実施

【指標】（学長特別教員研究費「複数学部にまたがる研究」または「共同研究(他学部・産学公)」を 1 件以上採択）

⇒学長特別研究費「学部間連携・産学公連携研究」を 2 件採択

自己評価：Ⅳ

◆項番 19 外部資金の獲得に向けた取組の推進

- ・研究推進局が設置する 7 研究所・1 プロジェクトチームにおいて、5 研究所・1 プロジェクトチームが学内予算の配分を受けることなく、外部資金のみで運営
- ・研究に係る外部資金の獲得支援のため、教員への研究費配分に関する新たなインセンティブ制度を 2025 年度より実施することを決定

【指標】（研究に係る外部資金の採択・受入件数を、第二期最終年度から 10%以上増加（215 件以上））

⇒2024 年度実績：187 件（第二期最終年度（2018 年度実績：195 件）より 4.1%減少）

自己評価：Ⅲ

地域連携・貢献

◆項番 22 県等との意見交換会を通して、地域課題への対応に向けた取組の推進

- ・愛知県防災安全局県民安全課との共催により「性暴力被害防止セミナー」を継続開催するとともに、新たに「フォローアップ交流会」を開催
- ・愛知県高等学校教育課と新たに連携して、「全国高校情報教育研究会全国大会」を本学で開催し、公開講座を共催

【指標】（愛知県の関連部署との意見交換会を 1 回以上、県との共催事業・貢献活動を 1 件以上）

⇒意見交換会を 13 回、共催事業・貢献活動（新規）を 4 件実施

自己評価：Ⅳ

その他

◆項番 28 外国語学部以外の単位認定を伴う海外留学の促進

- ・「留学フェア Week」を新たに開催し、留学説明会・相談会や留学経験学生との座談会・交流会等を実施
- ・フィリピン・ラブラプセブ国際大学の夏季ショートプログラムを新たに実施

【指標】（在学中に単位認定を伴う留学を経験した外国語学部以外の学生数を 2 倍（78 名）以上）

⇒外国語学部以外の単位認定を伴う留学者：58 名

自己評価：Ⅲ

2024 年度における業務実績の概要

※◆は重点的計画、◇は重点的計画でない項番。

芸 術 大 学

教 育

◆項番 30 実技力と芸術性をもつ人材の育成に向けた魅力ある学部教育の推進

- ・領域を超えた授業科目として、美術学部陶磁専攻と音楽学部作曲コースによる合同授業を継続し、2 月に代官山蔦屋書店にて成果発表を行ったほか、領域を超えた教育のさらなる拡充も見据え、本学美術学部デザイン専攻・佐藤研究室と愛知県立大学日本文化学部国語国文学科・宮崎研究室（近代文学）において、卒業研究に係る学生交流を実施
 - ・アーティスト・イン・レジデンス事業を 3 企画採択、ワークショップ等を実施
- 【指標】（アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業を毎年 4 件以上実施）
⇒アーティスト・イン・レジデンス事業 3 件、外国人客員教員事業 4 件を実施

自己評価：Ⅳ

◆項番 33 特色ある教育研究の展開に向けた専攻・カリキュラムの見直し

- ・全学カリキュラム委員会において、「学生目線で、愛知県立芸術大学の学生にとって必要な教養教育」を方針として、2026 年度及び 2030 年度に全学的なカリキュラム改正を実施することを決定
 - ・メディア映像専攻大学院設置準備委員会にて、2026 年度の大学院開設に向け準備を推進
- 【指標】（2022 年度に美術学部の専攻・領域を見直し、新たにメディア映像専攻を開設）
⇒予定通り、2022 年度にメディア映像専攻を開設

自己評価：Ⅲ

◆項番 36 学生の将来目標・設計を啓発し、専門を生かせるキャリア支援を推進

- ・新たな就職支援の取組として、学生の志望度が高い広告代理店と大手電機メーカー内定者をスピーカーに、具体的な活動時期や内容、失敗事例、ポートフォリオのまとめ方など、実体験を踏まえた内容の座談会を実施
- 【指標】（キャリアサポートガイダンスを毎年 25 件以上実施）
⇒キャリアサポートガイダンスを 53 件実施

自己評価：Ⅳ

研 究

◆項番 39 教員の芸術活動・研究の推進とその成果の地域還元

- ・宗次ホールとの協賛により、弦楽器コース教員を中心としたレクチャーコンサート「室内楽の響演Ⅱ」を開催
- ・音楽学部作曲コース・小林教授が、令和 6 年度愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞
- ・美術学部メディア映像専攻・有持教授が、現代アニメーション研究の国際会議「Animafest Scanner 11」（クロアチア）にて、エストニア・アニメーション史の研究発表を実施

自己評価：Ⅳ

◆項番 40 研究支援体制の整備、企業等との連携強化、外部資金の獲得増に向けた取組

- ・芸術情報センターにおいて、研究データポリシー等の各種規程等を策定、整備
 - ・東京で開催された環境総合展「エコプロ 2024」において、デザイン専攻・春田研究室により企業と共同で本学ブースを出展、「土に還る衣食住のプロダクト」を公開
 - ・長久手市から受託した復元模写制作「長久手合戦図屏風」が 2024 年度末に完成
- 【指標】（科学研究費及びその他の助成金を毎年 20 件以上申請）
⇒申請件数：29 件（うち、採択 13 件）

自己評価：Ⅳ

地域連携・貢献

◇項番 41 愛知県や他機関等との連携推進及び県民が芸術に親しむ機会の創出

- ・名古屋中ロータリークラブとの共催により、子供たちが本格的な芸術を体験するイベント「こども愛知芸大」を開催し、小学 4 年生から中学 3 年生の児童、生徒を対象に、作品制作、ワークショップ、ミニコンサートやワンポイントレッスンなどのプログラムを実施、保護者含め約 220 名が参加
- ・彫刻専攻・高橋研究室で能登半島地震仮設住宅へ手作りの表札を届けるプロジェクトを実施
- ・引き続き、名古屋工業大学「アートフルキャンパス構想」を共創、推進

自己評価：Ⅳ

◆項番 43 栄サテライトギャラリーの開設・活用推進

- ・本学卒業生による個展を 6 件実施、若手作家の支援の場として活用・推進
 - ・名古屋工業大学と本学との共創研究の成果発表展を開催、名古屋工業大学の学祭期間に合わせ VR・MR 空間に創出された映像体験と陶芸の魅力を体験するワークショップを実施
 - ・アーティスト・イン・レジデンス事業の成果発表展を開催、招聘作家の北條氏はギャラリーにて来場者との交流を深め、次の個展に繋がるなど高評
- 【指標】（栄サテライトギャラリー入場者数を第三期最終年度に 5,000 人以上とする）
⇒入場者総数：1,828 人

自己評価：Ⅲ

その他

◆項番 45 大学 Web サイトなど情報発信ツールの充実、芸大のブランド・知名度向上

- ・こども愛知芸大など、学長のトップマネジメントによる新たな全学的な事業を展開し、新聞やテレビ等のメディアに掲載、発信
 - ・大学 Web サイトに、新たに「キャリア支援」等のページを追加し、コンテンツを拡充
- 【指標】（大学 Web サイト・SNS のアクセス数を第三期最終年度に 150 万件以上とする）
⇒アクセス数 1,178,698 件（大学 Web サイト、Facebook、X の合計）

自己評価：Ⅲ

2024 年度における業務実績の概要

法人運営

自己評価結果の概要

法人・大学運営

※◆は重点的計画の項番。

◆項番 46 法人・大学の運営体制の充実と効果的・効率的な法人・大学運営の推進

- ・常勤役員連絡会議及び常勤四役会議を計 12 回開催し、常勤役員及び幹部職員間の情報共有や意見交換を実施

【指標】(第三期最終年度までに理事長・学長によるトップマネジメント事業費を業務費総額の 1 %以上確保)
⇒2025 年度のトップマネジメント事業費予算額：21, 234 千円（業務費総額の 1. 13%）

自己評価：Ⅲ

◆項番 48 様々な連携による大学の魅力づくりの推進

- ・教養教育に係るワーキンググループを立ち上げ、2 大学が連携した教養教育科目の開講を決定
- ・愛知県経済産業局及びフランスの高等教育機関と連携し、「第 3 回スタートアップ国際シンポジウム」を開催
- ・両大学の学生を対象にアントレプレナーシップ教育の専門家を招聘し特別集中授業を実施
- ・科学技術振興機構（JST）の補助金を活用し、高校生向けのアントレプレナーシップ教育プログラムを実施（県大：4 回、芸大：4 回）

【指標】（2 大学連携事業を検討・推進するための会議を毎年 2 回以上開催）
⇒2 大学の連携推進に関する会議を 7 回開催

自己評価：Ⅳ

人材の確保・育成

◆項番 52 大学を支える事務職員の育成

- ・他機関（名古屋大学）へ職員 1 名を派遣
- ・職員のスキル向上のため、新たに語学研修の実施及び各種研修等への補助制度を開始

【指標】（第三期最終年度までに海外派遣及び他機関への派遣研修に従事した法人固有職員の割合を 30%以上にする）
⇒2024 年度末現在の割合：21. 8%

自己評価：Ⅲ

その他

◆項番 59 良好で安全・安心な教育研究環境の維持と情報基盤ネットワークの強化

- ・施設・設備の点検を継続して行くと共に、長久手キャンパス体育館の長寿命化改修工事を実施
- ・教職員に対する標的型メール攻撃予防訓練及び情報セキュリティ研修によるセキュリティ意識向上に向けた取組を実施

自己評価：Ⅲ

2024年度実施項目			
I 実施していない	II 十分には実施していない	III 十分に実施している	IV 上回って実施している
未着手	着手はしたが 目標に到達していない	目標を達成している	目標を上回って 実施している
0 項目	0 項目	50 項目 (15 項目)	12 項目 (8 項目)
0 項目	0 項目	65 項目	20 項目
0%	0%	76.5%	23.5%

※1（ ）内は重点的計画数

※2 重点的計画考慮後の合計

中期計画の大項目・中項目	項目数	I	II	III	IV
1 教育研究等の質の向上	45 (19)	0	0	34 (12)	11 (7)
(1) 県大	29 (9)	0	0	23 (6)	6 (3)
1-1 教育	17 (3)	0	0	13 (2)	4 (1)
1-2 研究	4 (2)	0	0	3 (1)	1 (1)
1-3 地域連携・貢献	4 (2)	0	0	3 (1)	1 (1)
1-4 その他	4 (2)	0	0	4 (2)	0
(2) 芸大	16 (10)	0	0	11 (6)	5 (4)
1-1 教育	9 (5)	0	0	7 (3)	2 (2)
1-2 研究	2 (2)	0	0	0	2 (2)
1-3 地域連携・貢献	3 (2)	0	0	2 (2)	1 (0)
1-4 その他	2 (1)	0	0	2 (1)	0
2 業務運営の改善	9 (3)	0	0	8 (2)	1 (1)
3 財務内容の改善	2 (0)	0	0	2 (0)	0
4 自己点検・評価及び情報の提供	2 (0)	0	0	2 (0)	0
5 その他業務運営	4 (1)	0	0	4 (1)	0
合 計	62 (23)	0	0	50 (15)	12 (8)
重点的計画考慮後の合計	85	0	0	65	20

※（ ）内は重点的計画数